

令和5年度における主な取り組み

① 芸術文化情報発信サイト整備

関連する実行プラン
1- (1) -① 芸術文化活動情報発信の基盤整備
1- (1) -② 芸術文化に関する情報内容の充実
1- (2) -① 芸術文化の魅力伝える機会の創出
3- (2) -② 芸術文化活動の担い手と受け手をつなぐ機能の充実
4- (1) -① 芸術分野がつながる活動の推進
5- (1) -① 芸術文化活動を行う個人・団体のネットワークの構築
5- (1) -③ 芸術文化の活動場所の把握
令和5年度に予定していた取組
<ul style="list-style-type: none"> ・情報発信サイトの構築 ・情報発信サイトに掲載する情報の収集 ・情報発信サイトの活用方法の検討（魅力の発信、交流会、相談機能） ・情報発信サイトの周知、勸奨

結果
<p><情報発信サイトの構築></p> <ul style="list-style-type: none"> ・公募型プロポーザル審査により構築業者を選定し、より活用できるサイトとするため、九州大学や連携会議等の意見をもとに構築を進めた。 ・アンケート結果より、既存の紙媒体等での発信方法も必要とされている一方で、インターネットを用いた情報発信方法を求める声が増えていることが分かった。また、市民やアーティストが自分で情報を探すだけでなく、プッシュ型の発信方法を考える必要があることがわかった。 <p><情報発信サイトに掲載する情報の収集></p> <ul style="list-style-type: none"> ・活動場所については、市民アンケートにて情報収集を実施した。 ・芸術文化活動を行う個人・団体については、情報収集することができなかった。 <p><情報発信サイトの活用方法の検討（魅力の発信、交流会、相談機能）></p> <ul style="list-style-type: none"> ・団体が自ら情報を発信したり、PRできるコンテンツ、サイトQ&A、サイト登録者向けの相談機能を設けることとした。 ・アンケートにて、交流会のニーズを調査した。 <p><情報発信サイトの周知、勸奨></p> <p>未実施</p>

課題		
<p><情報発信サイトの構築></p> <ul style="list-style-type: none"> ・サイトの公開は令和6年7月を予定しており、公開に向けて、掲載内容の収集、整理や周知活動を広く実施する必要がある。 ・必要な人に情報を届けるための情報発信方法について調査する必要がある。 <p><情報発信サイトに掲載する情報の収集></p> <ul style="list-style-type: none"> ・得た情報をサイトに掲載するために、内容をブラッシュアップする必要がある。 <p><情報発信サイトの活用方法の検討（魅力の発信、交流会、相談機能）></p> <ul style="list-style-type: none"> ・サイトを周知するだけでなく、実際に活用してもらえるような取組を行う必要がある。 ・アンケートで聞き取った交流のニーズに沿って、内容ややり方を検討する必要がある。 ・現在は、相談を受けた者が知っている範囲での回答に留まっているため、人が変わると対応が難しくなることが考えられる。そこで、継続的に対応するため、相談機能のあり方の検討と仕組みづくりを行う必要がある。※サイト以外での取組も検討する <tr> <th>令和6年度以降の方針</th> </tr> <tr> <td> <p><芸術文化情報サイトの整備及び周知></p> <ul style="list-style-type: none"> ・サイトの掲載内容の整理 ・サイトへの登録対象者をターゲットとした周知活動 ・市民向けの周知活動 <p><情報をより多くの市民に伝えるためのプッシュ型情報発信方法の検討及び実施></p> <ul style="list-style-type: none"> ・より効果的なプッシュ型情報発信方法の調査 <p><芸術文化活動ができる新たな施設、空きスペースの調査と情報の可視化></p> <ul style="list-style-type: none"> ・情報の収集と集めた情報をサイトへわかりやすく掲載する <p><活動団体や芸術分野を超えた交流会の実施></p> <ul style="list-style-type: none"> ・今年度把握したニーズをもとに実施方法や内容を検討する <p><個人・団体のネットワークを活かす仕組みづくり></p> </td> </tr>	令和6年度以降の方針	<p><芸術文化情報サイトの整備及び周知></p> <ul style="list-style-type: none"> ・サイトの掲載内容の整理 ・サイトへの登録対象者をターゲットとした周知活動 ・市民向けの周知活動 <p><情報をより多くの市民に伝えるためのプッシュ型情報発信方法の検討及び実施></p> <ul style="list-style-type: none"> ・より効果的なプッシュ型情報発信方法の調査 <p><芸術文化活動ができる新たな施設、空きスペースの調査と情報の可視化></p> <ul style="list-style-type: none"> ・情報の収集と集めた情報をサイトへわかりやすく掲載する <p><活動団体や芸術分野を超えた交流会の実施></p> <ul style="list-style-type: none"> ・今年度把握したニーズをもとに実施方法や内容を検討する <p><個人・団体のネットワークを活かす仕組みづくり></p>
令和6年度以降の方針		
<p><芸術文化情報サイトの整備及び周知></p> <ul style="list-style-type: none"> ・サイトの掲載内容の整理 ・サイトへの登録対象者をターゲットとした周知活動 ・市民向けの周知活動 <p><情報をより多くの市民に伝えるためのプッシュ型情報発信方法の検討及び実施></p> <ul style="list-style-type: none"> ・より効果的なプッシュ型情報発信方法の調査 <p><芸術文化活動ができる新たな施設、空きスペースの調査と情報の可視化></p> <ul style="list-style-type: none"> ・情報の収集と集めた情報をサイトへわかりやすく掲載する <p><活動団体や芸術分野を超えた交流会の実施></p> <ul style="list-style-type: none"> ・今年度把握したニーズをもとに実施方法や内容を検討する <p><個人・団体のネットワークを活かす仕組みづくり></p>		

<サイトトップページイメージ> ※参考資料参照

サイト名は、市民、アーティスト、地域活動団体が芸術文化を介して「つながる」サイトとなるという想いを込めて「ツナグト」というサイト名とした。



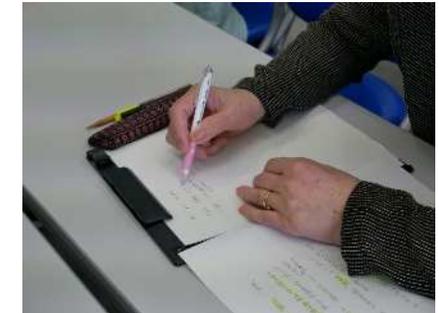
② 芸術文化を支える人材育成のためのアートマネジメント研修

関連する実行プラン
1- (2) -① 芸術文化の魅力を伝える機会の創出 3- (2) -① 芸術文化活動を支える人材の育成
令和5年度に予定していた取組
<ul style="list-style-type: none"> 九州大学長津研究室への受託研究として実施（令和5、6年度） ファシリテーター及び市民レポーター研修の検討 担い手が活躍する仕組みの検討

結果
<p><ファシリテーター及び市民レポーター研修の検討></p> <ul style="list-style-type: none"> 九州大学長津研究室と大野城まどかびあとの3者による共同研究として実施。 (ファシリテーター) 他の先行事例を知るために、ヒヤリング調査を実施。 ヒヤリング先：アートマネジメントセンター福岡、穂の国とよはし劇場 PLAT、丸亀市 文化連盟会員を対象に、プレ講座を実施。5名参加。講師は、俳優でファシリテーターとして活動する古賀今日子氏。 それぞれの活動（ダンス、書道、謡曲、水彩画）を分解しながら、プログラムを作成するための要素を取り出し、組み合わせる作業を体験。その際に、自分とは異なる分野と、掛け合わせるできないかについても考えた。 <p>(レポーター)</p> <ul style="list-style-type: none"> 他の先行事例を知るために、ヒヤリング調査を実施。 ヒヤリング先：potari（佐賀大学）、totto（鳥取県） まどかびあボランティアを対象に、プレ講座を実施。6名申込、5名参加、1名辞退。講師は、映画・文化芸術にかかわるプロジェクトを中心とした企画や制作、執筆等を行う三好剛平氏。講師の講義のほか、インタビューの実施、記事の作成を行った。
課題
<p><ファシリテーター及び市民レポーター研修の検討></p> <p>(ファシリテーター)</p> <ul style="list-style-type: none"> ファシリテーター講座受講生の活躍の場と養成講座の本格実施に向け、講座の内容や受講対象者等について検討する必要がある。 自治体規模、芸術文化活動の現状を踏まえ、継続的に実施できる講座や制度を検討する必要がある。 <p>(レポーター)</p> <ul style="list-style-type: none"> 市民レポーター制度の本格実施に向け、講座の内容や受講対象者等について検討する必要がある。 レポーター制度をうまく運営するための座組等、レポーター制度そのもののあり方を検討する必要がある。

令和6年度以降の方針
○次年度も引き続き、九州大学長津研究室と大野城まどかびあとの3者による共同研究として実施。
<ファシリテーター養成講座の実施>
<ul style="list-style-type: none"> 講座内容の検討と講座の実施 受講生の活躍の場を含め、継続的に実施できる講座や制度の検討
<市民レポーター制度の構築>
<ul style="list-style-type: none"> 講座内容の検討と講座の実施 次年度以降を踏まえたレポーター制度の検討

<講座の様子>



③ 身近な場所での芸術文化イベントの実施及び支援

関連する実行プラン
2- (1) -① 誰もが体験・鑑賞できる環境づくり
2- (1) -② 誰もが体験・鑑賞できる機会の創出
3- (1) -① 若い世代の芸術文化活動の担い手の育成
令和5年度の取り組み
<ul style="list-style-type: none"> ・まどかフェスティバル等での芸術文化体験イベントの実施 ・イベントを通じたハンドブックの周知・活用 ・多様なジャンルが体験できるイベントの検討

結果
<p><ハンドブックの周知及び活用></p> <ul style="list-style-type: none"> ・まどかフェスティバルやコミュニティセンターにて、市の芸術文化の取組やハンドブックのPRを含めたイベントの実施。 <p><身近な場所での芸術文化体験イベントの実施></p> <ul style="list-style-type: none"> ・まどかフェスティバル及びコミュニティセンターでの芸術文化体験イベントの実施。 ◇身体表現ワークショップ「おやかでたのしむからだあそび 絵本とダンス」(11月3日) ◇演劇ワークショップ「わたしが知ってる大野城のはなし 南地区の巻」(1月21、27、28日) <p><多様なジャンルの体験ができるイベントの検討></p> <ul style="list-style-type: none"> ・文化連盟に対し、様々なジャンルを体験できる事業の実施に向け相談を行う。 ・文化連盟が、子ども文化交流事業(子ども文化活動・交流推進事業補助金)にて、空手演武と日本舞踊を体験できるイベントを実施。4歳から中学3年生まで20名の参加。

課題
<p><ハンドブックの周知及び活用></p> <ul style="list-style-type: none"> ・PRを含めたイベントを実施することはできたが、イベント開催に併せた周知だけでなく、その他のPR方法を検討する必要がある。 <p><身近な場所での芸術文化体験イベントの実施></p> <ul style="list-style-type: none"> ・より人が集まりやすい時期、日程を検討しながら、引き続き次年度以降も実施する。 <p><多様なジャンルの体験ができるイベントの検討></p> <ul style="list-style-type: none"> ・多様なジャンルを体験できる機会の創出については、文化連盟が、2つのジャンルを体験できるイベントを開催した。継続し、様々なジャンルが対象となるように、文化連盟に対し、情報提供及びサポートを行い、協力をいただく必要がある。
令和6年度以降の方針
<p><市や大野城まどかびあによる地域(各コミュニティセンターや公民館、学校等)での芸術文化イベントの実施及び支援></p> <ul style="list-style-type: none"> ・コミュニティセンター等での市民向け芸術文化体験イベントの実施(コミュニティセンターでは、令和5年度～8年度で実施) <p><芸術文化活動の入口を作るための環境整備及び考え方の普及></p> <ul style="list-style-type: none"> ・引き続き、PRを行いながら、その他の具体的な実施方法を検討する。 <p><多様なジャンルの体験ができるイベントの検討></p>

<演劇ワークショップの様子>

参加者でおしゃべりしながら、ラジオドラマをつくるワークショップ(参加者13名)



<文化連盟主催「子ども文化交流事業」の様子>

空手の演武と日本舞踊の体験



④ 芸術文化の他分野への活用

関連する実行プラン
4- (2) -② 芸術文化の他分野への活用
令和5年度の取り組み
<連携会議の実施（年6回程度を予定）> ー プラン中間年度見直し内容の検討を行う。 ①アンケートの分析 ②アンケート結果に基づく、必要な取り組みの検討 ③見直し（案）の作成 ー 既存事業に芸術文化を取り入れるための仕組みを作るための検証を行う。

結果
<連携会議の実施> <ul style="list-style-type: none"> ・会議開催は1回であったが、書面にて報告を行った。 ・アンケートの分析や見直し案の検討など、他分野からの意見を聞くことができた。 ・既存事業に芸術文化を取り入れるための仕組みを作るための検証については未実施。 <他分野への芸術文化の活用> ※予定にはなかった方法で実施 ◇身体表現ワークショップ「おやこでたのしむからだあそび 絵本とダンス（幼児・小学生向け）」 <ul style="list-style-type: none"> ・読書（絵本の読み聞かせ）分野との連携事業の実施。読書ボランティアの活躍の場の創出と芸術文化の他分野への活用を事務局が実施してみることを目的とした。 ・これまで芸術文化活動に触れたいことのない参加者が6割おり、芸術文化にふれる機会となった。 ・読書ボランティアからも、アーティストと関わることで、絵本の読み聞かせの新たな可能性を感じることができたとのご意見をいただいた。また、おはなし会で、今回のワークショップで行ったワークを取り入れたり、アーティストが絵本の選書の相談をボランティアに行うなど交流が生まれた。

課題
<連携会議の実施> <ul style="list-style-type: none"> ・連携会議のより良いあり方（構成課や回数、内容、進め方等）について、検討する必要がある。 <他分野への芸術文化の活用> <ul style="list-style-type: none"> ・今回実施した取組を事例として残すとともに、芸術文化の他分野への活用を広げるための方法を検討する必要がある。

令和6年度以降の方針
<部門間連携会議のプラン進捗に沿ったより良いあり方の整理及び実施> <ul style="list-style-type: none"> ・連携会議での議題の整理を行い、それに沿った構成課、回数等の検討。（情報発信方法や構成課から議題を募るなど方法を検討する） <福祉、教育、商工業等、他分野で芸術文化を活用してもらうための取組の実施>

<身体表現ワークショップの様子>

絵本の読み聞かせと読んだ絵本を身体で表現するワークショップ（参加親子：8組、20名）

